

Windows Server 2012 R2 ライセンスデータシート



製品の概要

Windows Server 2012 R2 は、エンタープライズ クラスのサーバーおよびクラウド プラットフォームを提供するグローバル スケールのクラウド サービスに関するマイクロソフトの実績の集大成で、最も重要なワークロード用にパフォーマンスを最適化することができるだけでなく、サービス停止に対する堅牢な復旧オプションも備えています。Windows Server 2012 R2 では、包括的な自動化に加えて、業界標準のハードウェアに基づいた記憶域とネットワークの仮想化ソリューションによって複雑さとコストが削減されます。さらに、データセンターとクラウドの間で移動できるアプリケーションを構築、実行、およびスケールアップすることができ、企業情報を保護しながら、場所やデバイスに制限されることのない柔軟なリモート アクセスをユーザーに提供できます。

エディションの概要

Windows Server 2012 R2 製品はシンプルに簡素化されているので、ニーズに最適なエディションを選択できます。

- **Datacenter エディション:** 高度に仮想化されたプライベート クラウド環境向け。
- **Standard エディション:** 仮想化されていない環境または軽度仮想化された環境向け。
- **Essentials エディション:** 最大 2 基のプロセッサを備えたサーバー上で実行する 25 ユーザー以下のスモールビジネス向け。
- **Foundation エディション:** 1 基のプロセッサを備えたサーバー上で実行する 15 ユーザー以下のスモールビジネス向け。

エディションごとの機能の違いについては、[こちら](#)をクリックしてください。

エディション	機能の比較	ライセンスモデル	参考価格*
Datacenter	無制限の仮想 OSE すべての機能	プロセッサ + CAL**	現状の参考価格より 28% アップ
Standard	2 つの仮想 OSE すべての機能	プロセッサ + CAL**	170,000 円
Essentials	2 基のプロセッサ 1 つの OSE 機能制限あり	サーバー 25 ユーザー	96,200 円
Foundation	1 基のプロセッサ 機能制限あり	サーバー 15 ユーザー	OEM のみ

OSE: オペレーティング システム環境

*Open No Level (NL) 参考価格。(具体的な価格については、Microsoft の販売代理店にお問い合わせください。販売代理店を通じて購入するライセンスの価格や支払い条件は、Microsoft が決定するものではありません。)

**サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。詳細については、[製品使用権](#)を参照してください。

ライセンスの概要

Windows Server 2012 R2 エディションのパッケージおよびライセンス体系に変更はありません。Datacenter および Standard の違いを次に示します。

- **仮想化権利のみの違い** — Standard エディションでは 2 つの仮想インスタンスを実行でき、Datacenter エディションでは無制限の仮想インスタンスを実行できます。
- **プロセッサ ベースの一貫したライセンス モデル** — サーバーあたり最大 2 基の物理プロセッサを対象とします。

Essentials および Foundation エディションの違いを次に示します。

- **サーバー ベースのライセンス モデル** — Foundation は 1 基のプロセッサを備えたサーバー向けで、Essentials は 1 または 2 基のプロセッサを備えたサーバー向けです。
- **アクセスするのに CAL は不要** – Foundation には 15 ユーザー アカウント、Essentials には 25 ユーザー アカウントが付属しています。

クライアント アクセス ライセンス (CAL)

これまでと同様に、Windows Server の Standard および Datacenter エディションでは、サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとに Windows Server CAL が必要です (例外については、[製品使用权](#)を参照してください。間接的なアクセスのライセンス情報については、『[マルチプレキシング \(多重化\) — クライアント アクセス ライセンス \(CAL\) の要件](#)』を参照してください)。

一部の追加機能または高度な機能では、追加の CAL を購入する必要があります。Windows Server CAL に加えて必要となるこれらの CAL は、リモート デスクトップ サービスや Active Directory Rights Management サービスなどの機能にアクセスするために必要です (これらの CAL の詳細については、『[ベースおよび追加クライアント アクセス ライセンス \(CAL\)](#)』を参照してください)。

注: Windows Server 2012 CAL は、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 にアクセスするために必要です。

Datacenter および Standard エディションのライセンス数の決定

各ライセンスは、最大 2 基のプロセッサを搭載した 1 台のサーバーを対象としています。各サーバーに必要なライセンスの最少数は、物理プロセッサの数によって決定されます。Standard エディションの場合、サーバーに追加のライセンスを割り当てることによって、仮想インスタンスを追加することができます (ライセンスごとに 2 つの仮想インスタンスが追加されます)。

ライセンスの例	必要な Datacenter ライセンスの数	必要な Standard ライセンスの数
仮想化されていない 1 台の 1 プロセッサ サーバー	1	1
仮想化されていない 1 台の 4 プロセッサ サーバー	2	2
3 つの仮想 OSE を含む 1 台の 2 プロセッサ サーバー	1	2
12 の仮想 OSE を含む 1 台の 2 プロセッサ サーバー	1	6

新しいライセンス モデルへの移行

Windows Server 2012 R2 の一般提供の開始時点において、現在の Windows Server ライセンスを対象とするアクティブなソフトウェア アシュアランスがある場合は、Windows Server 2012 R2 への移行ライセンス付与は以下ようになります。

現在のライセンス	移行比率	新しいライセンス
Datacenter	1:1	Datacenter
Standard	1:1	Standard
Essentials	1:1	Essentials

Windows Server 2012 R2 の計画

Windows Server 2012 R2 の展開を計画している場合は、以下の点に注意してください。

- Windows Server 2012 R2 のエディションは、仮想化のニーズおよびエディションの機能に基づいて選択してください。
 - Datacenter エディション: 高度に仮想化されたプライベートクラウド向け。
 - Standard エディション: あまり仮想化されていない、あるいはまったく仮想化されていない環境向け。
 - Essentials エディション: 最大 2 基のプロセッサを備えたサーバーで実行する 25 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。
 - Foundation エディション: 15 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。OEM から 1 基のプロセッサを備えるサーバーを購入する場合に選択可能。
- 既存の投資を活用しながら、新しいバージョン、技術的なサポート、および導入計画サービスにアクセスするには、ソフトウェア アシユアランスを更新するのが最適な方法です。
- これまで通り、Microsoft Core Infrastructure Suite (CIS) は、プライベート クラウドおよびデータセンター管理において最も優れた価値を提供します。
- コア CAL およびエンタープライズ CAL スイートは、Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション上で実行するワークロードにアクセスするための Windows Server CAL の購入において最もコスト効果の高い方法です。
- 柔軟な支払方法は、必要な IT を予算内で構築するのに役立ちます。プログラムの詳細については、<http://www.microsoft.com/ja-jp/licensing/how-to-buy/financing.aspx> を参照してください。より詳しい情報については、Microsoft のソリューション パートナーに直接お問い合わせください。

付録

実行インスタンスごとのエディション比較

実行インスタンスは、物理オペレーティング システム環境 (POSE) または仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) のいずれにでも存在できます。

エディション	POSE での実行インスタンス	VOSE での実行インスタンス
Datacenter	1	無制限
Standard	1 ¹	2
Essentials	1 ¹	1 ²
Foundation	1	0

1 使用可能なすべての仮想インスタンスを実行する場合、物理インスタンスは、仮想インスタンスの管理およびサービスにのみ使用できます。仮想環境のライセンスについては、『[Microsoft Volume Licensing Brief: Licensing Microsoft Server Products in Virtual Environments](#)』ホワイト ペーパー (英語) を参照してください。

2 Essentials は、VOSE で実行できる唯一のエディションです。

サーバーの役割によるエディションの比較

エディションごとの主要なサーバーの役割を次の表にまとめます。

エディション	Datacenter Standard	Essentials	Foundation
AD 証明書サービス	●	■ 1	○ 1
AD ドメイン サービス	●	■ 2	● 3
AD フェデレーション サービス	●	●	●

エディション	Datacenter Standard	Essentials	Foundation
AD ライトウェイト ディレクトリ サービス	●	●	●
AD RMS ⁴	●	●	●
アプリケーション サーバー	●	●	●
DHCP サーバー	●	●	●
DNS サーバー	●	■	●
FAX サーバー	●	●	●
ファイル サービス	●	■ 5	○ 5
Hyper-V	●	●	—
ネットワーク ポリシーおよびアクセス サービス	●	■	○
印刷とドキュメント サービス	●	●	●
リモート アクセス	●	■ 6	○ 6
リモート デスクトップ サービス ⁷	●	■ 8	○ 9
UDDI サービス	●	●	●
Web サーバー (IIS)	●	■	●
Windows 展開サービス	●	●	●
Windows Server Essentials Experience	●	■	—
Windows Server Update Services (WSUS)	●	●	—

● 完全

○ 一部/制限

■ 自動インストール/構成

— 使用不可

AD = Active Directory

RMS = Rights Management サービス

DNS = ドメイン ネーム システム

1 証明機関の作成に制限されます。その他の Active Directory 証明書サービス機能 (ネットワーク デバイス登録サービス、オンライン レスポンダー サービス) はありません。詳細については、TechNet の ADCS 役割に関するドキュメントを参照してください。

2 ADDS フォレストおよびドメインのルートであり、すべての FSMO 役割を持つ必要があります。

3 ADDS 役割をインストールする場合、フォレストおよびドメインのルートであり、すべての FSMO 役割を持つ必要があります。

4 アクセスには追加の AD RMS CAL が必要です。

5 データ重複除去機能は使用できません。

6 50 の RRAS 接続および 10 の IAS 接続に制限されます。

DirectAccess および VPN がサポートされます。

7 Essentials エディションのリモート Web アクセス機能を使用する場合を除き、追加の RDS CAL が必要です。

8 RD ゲートウェイ役割サービスのみがインストールおよび構成されます。RD セッション ホストを始めとするその他の RDS 役割サービスはサポートされません。

9 50 のリモート デスクトップ サービス接続に制限されます。

入手方法

入手方法はエディションごとに異なります。

エディション	ボリューム ライセンス	OEM	リテール	SPLA
Datacenter	●	●	○	●
Standard	●	●	●	●
Essentials	●	●	●	●
Foundation	○	●	○	○

ライセンスに関してよく寄せられる質問 (FAQ)

Q: Windows Server 2012 R2 は、どのようにライセンスされますか。

A: Windows Server 2012 R2 のライセンス モデルは、Windows Server 2012 と同じです。2 つのエディション (Standard エディション および Datacenter エディション) がボリューム ライセンスで提供されます。エディションの違いは仮想化権利のみです (Standard では 2 つの OSE、Datacenter では無制限の OSE)。1 つのライセンスは、最大 2 基の物理プロセッサで使用できます。

- サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。Windows Server 2012 関連の CAL を使用すると、2012 R2 の機能にアクセスできます。

Q: Windows Server 2012 R2 Standard エディションと Windows Server 2012 R2 Datacenter エディションの違いは何ですか。

A: Standard と Datacenter の両方のエディションの機能は同じですが、仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) の数が異なります。Standard エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサ上で最大 2 つの VOSE を実行できます (ボリューム ライセンスの場合、[製品使用権](#)で規定されている VOSE 使用権の対象となります。その他のチャネルの場合は、[エンドユーザー ライセンス条項](#)の対象となります)。Datacenter エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサで無制限の VOSE を実行できます。

Q: Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス モデルは、引き続き整合されるのですか。

A: はい。Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス体系は似ていて、以下が含まれます。

- 2 つのエディション (Standard および Datacenter)。
- 最大 2 基のプロセッサで使用できる 1 つのライセンス。
- 仮想化権利のみによる違い (Standard で 2 つの VOSE、Datacenter で無制限の VOSE)。Windows Server 2012 R2 サーバーにアクセスするには、クライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。System Center で管理するエンドポイントに管理ライセンスが必要です。

Q: Windows Server 2012 R2 の Datacenter および Standard エディションでは、どのような機能が使用できますか。

A: Windows Server 2012 R2 の Datacenter および Standard エディションには、さまざまな新機能が搭載されています。次にいくつか例を示します。

- エンタープライズ クラスの仮想マシンの統合率、マイクロソフト ワークロードのクラス最高のパフォーマンスとスケーラビリティを備えたモデル
- コスト効果の高い業界標準のハードウェアに構築された高パフォーマンスのファイル ベースの記憶域 (記憶域の仮想化と階層化)
- マルチテナント環境およびプレミス間の物理および仮想ネットワークを繋ぐ高可用性のハイブリッド ネットワーキング
- シンプルで手頃な価格の障害復旧オプションによるすべてのワークロードの資産の保護および復旧
- 場所とデバイスに制限されることのない企業リソースへの柔軟なリモート アクセスおよび企業情報の保護

Q: 適切な Windows Server 2012 R2 エディションを決定するには、どうすればよいのですか。

A: Windows Server 2012 R2 の Standard および Datacenter エディションの機能は同等で、仮想化権利が唯一の違いなので、どちらのエディションを選択するかはお客様の仮想化戦略に基づきます。仮想化環境のメリットを最大限に享受する場合は、無

制限の仮想化を実現できる Datacenter エディションが最適な柔軟性を提供します。このエディションでは、対象となるサーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要なく、Datacenter がライセンスされている複数のサーバー間で仮想 OSE の追加と移動を行うことができます。仮想化環境の活用を計画していない場合は、Standard エディションが適切な製品です。Standard エディションを購入した後にライセンス対象のサーバーの仮想化機能を拡張する必要がある場合は、次のオプションを使用できます。

1. 追加の Standard エディション ライセンスを購入して同じ物理サーバーに割り当てることにより、Windows Server の追加インスタンスを実行できます。このサーバーには、実行するすべての仮想 OSE をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。
2. Datacenter エディションへのソフトウェア アシュアランス ステップアップ ライセンスを購入し、ライセンスを上位のエディションに変更することによって無制限の仮想 OSE を実行できます。この利点を活用するには、元のライセンスのソフトウェア アシュアランスが必要です。

Q: Windows Server 2012 R2 Standard エディションのライセンスを持っている場合に仮想化権利を増やすには、どうすればよいのですか。

A: Windows Server 2012 R2 Standard エディションのライセンス モデルでは、Datacenter エディションへのステップアップ ライセンスを購入するか (ソフトウェア アシュアランスがある場合)、追加の Standard エディションを購入して同じ物理サーバーに割り当てることによって仮想環境を増やすことができます。サーバーには、実行するすべての仮想 OSE をカバーする適切な数のライセンスを適用する必要があります。たとえば、1 台の 2 プロセッサ サーバーで合計 4 つの VOSE を実行する場合、2 つの Standard エディションのライセンスを購入して同じサーバーに割り当てることができます。その他の例については、以下の表を参照してください。

1 台のサーバーに割り当てる Standard エディション ライセンスの数	VOSE の総数
1	2
2	4
3	6
4	8

Q: サーバーに必要なライセンスの数を計算するには、どうすればよいのですか。

A: 必要なライセンスの数は、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数および実行するサーバーインスタンスの数によって決定されます (Datacenter エディションでは無制限の VOSE を実行できるので、これは Standard エディションにのみ適用されます)。これらの 2 つの数の大きい方によって、必要なライセンスの総数が決定されます。

最初に、物理プロセッサのライセンス数を特定します。

各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーするので、1 台の物理サーバーを完全にライセンスするために必要なライセンスの数を判断するには、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数を 2 で除算します。その結果が必要なライセンスの数になります (注: 物理プロセッサのコア数は関係ありません)。

以下に例をいくつか示します。

- 2 プロセッサ サーバー: 2 基の物理プロセッサ ÷ 2 (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数) = 1。1 台の 2 プロセッサ サーバーに必要なライセンスは 1 つです。
- 4 プロセッサ サーバー: 4 基の物理プロセッサ ÷ 2 (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数) = 2。1 台の 4 プロセッサ サーバーに必要なライセンスは 2 つです。
- 8 プロセッサ サーバー: 8 基の物理プロセッサ ÷ 2 (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数) = 4。1 台の 8 プロセッサ サーバーに必要なライセンスは 4 つです。

次に、実行する仮想インスタンスの数を特定します。

実行する VOSE の数をカウントして Standard エディションのライセンス数を特定するか (1 つのライセンスで最大 2 つの VOSE を実行できます)、サーバー上で無制限の VOSE を実行できる Datacenter エディションのライセンスを購入することができます。

1 つの Standard エディション ライセンスでは最大 2 つの VOSE を実行する権利が付与されるので、必要な Windows Server Standard エディション ライセンスの数を決定するには、サーバーで実行する VOSE の総数をカウントし、その数を 2 で除算します。その結果を満たす整数が必要なライセンス数です。

物理プロセッサおよび VOSE に基づいて特定された必要なライセンス数のうち、大きい数が必要なライセンスの総数です。サーバーには、実行するすべての仮想 OS をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。

たとえば、1 台の 2 プロセッサ サーバーで 3 つの仮想マシン (VOSE) を実行する場合、3 つの仮想マシンをカバーするために 2 つのライセンスが必要です。

1 台のサーバーに 2 つの Standard エディション ライセンスを割り当てる場合、そのサーバーでは合計 4 つの VOSE を実行できます。そのサーバーに追加の Standard エディション ライセンスを追加すると、そのサーバーで実行できる VOSE の数は 2 つ増えて、合計 6 つの VOSE を実行できるようになります。

Q: 1 つの Standard ライセンスを 1 台のシングル プロセッサ サーバーに使用できますか。

A: はい。1 つの Standard エディション ライセンスでは、1 台のサーバーで最大 2 基の物理プロセッサをカバーできます。しかし、そのサーバーに必ずしも 2 基の物理プロセッサが搭載されている必要はありません。

Q: Windows Server 2012 R2 ライセンスを複数のサーバーに分割できますか。

A: いいえ。各ライセンスは、1 台の物理サーバーにしか割り当てることができません。

Q: Windows Server 2012 R2 ライセンスを仮想マシンに割り当てることができますか。

A: いいえ。ライセンスは物理サーバーに割り当てられます。各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーします。ライセンスを物理サーバーに割り当てた後、そのサーバーで VOSE を使用することができます。

Q: 同一のサーバー上で Datacenter と Standard のライセンスを同時に使用できますか。

A: いいえ。サーバーに搭載されているすべてのプロセッサには、同じバージョンおよびエディションのライセンスを割り当てる必要があります。VOSE 内でゲストとして異なるエディションまたは古いバージョンの Windows Server ソフトウェアを実行できますが、バージョンまたはエディションが異なる複数のライセンスを同一の物理サーバーに割り当てて、そのサーバーに搭載されているプロセッサをライセンスすることはできません。

Q: バージョンまたはエディションの異なる Windows Server のライセンスを追加して仮想化権利を増やすことはできますか。

A: はい。サーバーに追加の Windows Server ライセンスを割り当てて、仮想化権利を増やすことができます。しかし、新しく割り当てるライセンスは、関連付けられたライセンス規則に従う必要があります。たとえば、古い Windows Server Enterprise エディション (提供終了) ライセンスが割り当てられている 4 プロセッサ サーバーに Windows Server 2012 R2 Standard エディションライセンスを追加して仮想化権利を増やす場合、そのサーバーに搭載されているすべてのプロセッサは Windows Server 2012 R2 Standard エディション ライセンスでもライセンスされている必要があります。したがって、合計で 2 つの Windows Server 2012 R2 Standard ライセンスが必要になります (各ライセンスは最大 2 基のプロセッサをカバーします)。

Q: 以前のバージョンまたはエディションの Windows Server のソフトウェアを使用する場合、どのようなオプションがありますか。

A: Windows Server 2012 R2 Datacenter エディションには、ソフトウェア ビットを以前のバージョンまたは下位エディションにダウングレードする権利が付属しています。Windows Server 2012 R2 Standard エディションには、ソフトウェアをダウングレードして以前のバージョンの Enterprise、Standard、または Essentials エディションを使用する権利が付属しています。

ダウングレード権は、製品を使用するためのライセンスまたはサポート条項を変更するものではありません。購入した製品 (Windows Server 2012 R2) の権利が適用されます。したがって、ライセンスでは、引き続き最大 2 基の物理プロセッサがカバーされ、仮想化権利は変更されません。さらに、購入したバージョンに対応するクライアント アクセス ライセンス (CAL) が例外として適用されます。ダウングレード対象の以前のバージョンを実行する場合、対応する CAL バージョンを使用できます (存在する場合)。

以下に例をいくつか示します。

購入したライセンス	ダウングレード後のバージョン またはエディション	適用されるビット権	適用されるライセンス権
Datacenter 2012 R2	Datacenter 2008	Datacenter 2008	Datacenter 2012 R2 ¹
Standard 2012 R2	Enterprise 2008 R2	Enterprise 2008 R2	Standard 2012 R2 ^{1,2}
Standard 2012 R2	Standard 2008	Standard 2008	Standard 2012 R2 ^{1,2}
Standard 2012 R2	Essentials 2012	Essentials 2012	Standard 2012 R2 ^{1,2}

1 1 つのライセンスは最大 2 基のプロセッサをカバーします。

2 1 つのライセンスで最大 2 つの仮想マシンを実行できます。

Q: Windows Server 2012 R2 の一般提供開始時にソフトウェア アシュアランスがある場合、いつライセンスレコードに反映されますか。

A: ボリューム ライセンス サービス センター (VLSC) には、新しい製品を直ちに使用できる権利が表示され、受け取る Windows Server 2012 R2 のエディションの永続的な権利 (元になるライセンスに基づきます) が与えられます。

Q: Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 Datacenter エディションとソフトウェア アシュアランスを持っている場合、どのエディションを使用できますか。

A: Datacenter エディションのソフトウェア アシュアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 Datacenter エディションを使用でき

このドキュメントは現状有姿で提供され、このドキュメントに記載されている情報や見解 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。このドキュメントは、マイクロソフト製品の無体財産権に関する法的な権利をお客さまに許諾するものではありません。

ます。ソフトウェア アシユアランスのある Windows Server 2012 Datacenter の各ライセンスに対して、1 つの Windows Server 2012 R2 Datacenter エディション ライセンスが提供されます。

Q: Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 Standard エディションとソフトウェア アシユアランスがある場合、どのエディションを受け取ることができますか。

A: Standard エディションのソフトウェア アシユアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 Standard エディションを使用できます。ソフトウェア アシユアランスのある Windows Server 2012 Standard の各ライセンスに対して、1 つの windows Server 2012 R2 Standard エディション ライセンスが提供されます。

Q: マイクロソフトの購入プログラムによるソフトウェア アシユアランス移行権利はどのようなものですか。

A: 契約終了時におけるソフトウェア アシユアランス移行対象の規則は、マイクロソフト購入プログラムごとに異なります。以下の表を参照してください。

プログラム	リリース時におけるソフトウェア アシユアランス
Enterprise Agreement	現在の (Windows Server 2012 R2) エディションの永続的権利が提供されます。これらの権利は、条件付きで、お客様の関連会社には同じ契約条項 (製品への支払いを含む) が適用されます。
Enterprise Agreement Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時、新しい Windows Server 2012 R2 製品をお客様の価格シートに記載されている買い上げ価格または代理店のチャネル価格シートに基づいた買い上げ価格で購入するか、新しい Windows Server 2012 R2 年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Enrollment for Education Solutions – School Enrollment	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時、元の Windows Server 2012 製品を買い上げることができます。契約満了直前の 36 か月以上の契約 (更新を含む) でライセンスされた Windows Server がある場合、新しい Windows Server 2012 R2 製品を契約終了時の公開価格リストの買い上げ価格で買い上げることができます。または、新しい Windows Server 2012 R2 エディションの年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Open Value	現在の (Windows Server 2012 R2) エディションの権利が提供されます。これらの権利は条件付きで、お客様の関連会社には本契約の条項 (製品への支払いを含む) が適用されます。
Open Value Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時、契約対象の元の Windows Server 2012 製品を元の価格リストの価格で買い上げるか、新しい Windows Server 2012 R2 年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
Open Value Subscription – Education Solutions	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時、元の Windows Server 2012 製品を買い上げることができます。契約満了直前の 36 か月以上の契約 (更新を含む) でライセンスされた Windows Server がある場合、新しい Windows Server 2012 R2 製品を契約終了時の公開価格リストの買い上げ価格で買い上げることができます。または、新しい Windows Server 2012 R2 エディションの年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。

Select/Open

現在の (Windows Server 2012 R2) エディションの権利が提供されます。これらの権利は条件付きで、お客様の関連会社には本契約の条項 (製品への支払いを含む) が適用されます。

Q: Windows Server 2012 R2 の Standard および Datacenter エディションの価格はいくらですか。

A: 価格はライセンスプログラム、およびチャネルによって異なります。具体的な価格については、マイクロソフトの販売代理店にお問い合わせください。販売代理店を通じて購入するライセンスの価格や支払い条件は、マイクロソフトが決定するものではありません。

Windows Server エディション	ボリューム ライセンス Open No Level (NL) 参考価格
Datacenter	現状の参考価格より 28%アップ
Standard	170,000 円

Q: Windows Server Datacenter 2012 R2 の価格が異なるのはなぜですか。

A: マイクロソフトは価格およびライセンスに関する決定を慎重に行っています。すべての価格設定は、製品価値、顧客およびパートナー フィードバック、および市場状況の変化が考慮に入れられています。Windows Server Standard エディションと Windows Server Datacenter エディションの間では、Windows Server Datacenter エディションは高度に仮想化された環境に最適化されています。Windows Server Datacenter のライセンスは、無制限の仮想化権利を提供するので、サーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要なくライセンスされた複数のサーバー間で仮想 OSE を追加および移動できる柔軟性があります。高度な仮想化が不要なサーバーの場合、Windows Server Standard エディションが最適です。この場合、ライセンスあたり 2 つのインスタンスが提供され、複数のライセンスを単一のサーバーに割り当てて、そのサーバー上で実行できる仮想 OSE の密度を増やすことができます。Windows Server Standard でライセンスされたサーバーには、実行するすべての OSE をカバーする適切な数のライセンスが割り当てられている必要があります。

この情報に基づいて、仮想化のニーズを最も適切に満たすエディションを選択できます。

増加するワークロードをサポートするために活用できる Windows Server の継続的製品投資の例をいくつか以下に示します。

- * VHD および VHDX のサイズを動的に変更できる機能
- * 障害復旧に Linux ベースの仮想マシン (VM) のレプリカを使用する機能
- * コスト効果の高い業界標準ハードウェア上の高パフォーマンスのファイル ベースの記憶域 (記憶域の仮想化および階層化)

Q: Windows Server 2012 R2 にアクセスするためには、どのクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要ですか。

A: Windows Server 2012 クライアント アクセス ライセンス (CAL) は、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 へのアクセスに使用できます。Windows Server 2012 R2 にアクセスするために Windows Server 2012 CAL のソフトウェア アシュアランスは必要ありません。Windows Server 2012 R2 を使用するには、Windows Server 2012 と同じ CAL バージョンが必要です。

Q: リモート デスクトップ サービス (RDS) および Active Directory Rights Management サービス (ADRMS) にアクセスするために個別の CAL が必要ですか。

A: はい。Windows Server 2012 R2 のリモート デスクトップ サービス (RDS) および Active Directory Rights Management サービス (ADRMS) のライセンス条件は変更されていません。ADRMS および RDS の機能にアクセスするには、Windows Server CAL の他

に、それぞれ ADRMS CAL および RDS CAL を購入する必要があります。たとえば、Windows Server 2012 R2 の RDS 機能にアクセスするには、サーバー ソフトウェアに加えて、Windows Server 2012 CAL および Windows Server 2012 RDS CAL が必要です。

Q: “プレビュー” または “一般提供” と表示されている Windows Azure 上で実行する Windows Server 2012 R2 の価格はいくらですか。

A: プレビューの場合、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE では Linux を実行する VOSE と同じ課金が行われます。一般提供時には、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE に対する課金率は、Windows Server 2012 を実行する VOSE と同じです。

Q: Windows Server 2012 R2 ライセンスおよびイメージを Hyper-V と Azure の間で移動できますか。

A: Windows Server 2012 と同様に、Windows Server 2012 R2 のライセンスはソフトウェア アシユアランス特典のライセンス モビリティの対象ではありません。その他のサーバー アプリケーションのライセンス モビリティは引き続き活用できます。しかし、Windows Server は、サービス プロバイダーまたは Azure から個別に購入する必要があります。

Q: Azure 上で実行する Windows Server 2012 R2 インスタンスを管理するために必要な System Center ライセンスは何ですか。

A: ソフトウェア アシユアランスのライセンス モビリティを使用して、System Center 2012 R2 ライセンスを Azure 上で実行する Windows Server インスタンスに割り当てることができます。

Q: Azure 上でインスタンスを実行するために Core Infrastructure Suite で Windows Server 2012 R2 をライセンスするには、どうすればよいのですか。

A: Windows Server ではスタンドアロン ライセンスまたは Core Infrastructure Suite (CIS) 製品内のコンポーネント製品としてのモビリティ権が提供されないため、Core Infrastructure Suite (CIS) Windows Server ライセンスを Azure で実行することはできません。

WS 2012 R2 - Essentials および Foundation エディション

Q: Windows Server 2012 R2 Essentials のライセンス モデルに変更はありますか。

A: これまで通り、Windows Server 2012 R2 Essentials には、最大 2 基の物理プロセッサを搭載した 1 台のサーバーをカバーするライセンスが必要です。CAL は必要ありませんが、25 ユーザー アカウントに制限されます。

Windows Server 2012 R2 Essentials エディションの以前のバージョンでは、仮想マシンとして実行するにはハイパーバイザーを別途取得する必要がありました (無償の Microsoft Hyper-V Server に含まれるオプション、または Windows Server Standard エディションを使用した Hyper-V の実行)。Windows Server 2012 R2 Essentials では、製品のライセンス条項が拡張され、物理サーバー上で 1 つのオペレーティング システム インスタンスを Hyper-V 用に実行し、Essentials を仮想マシンとして実行するためにそのサーバーで 2 番目のオペレーティング システム環境を実行することができます。したがって、これまでになく Hyper-V およびその機能 (ライブ マイグレーションや Hyper-V レプリカなど) を容易に活用できます。

Q: Windows Server 2012 R2 Essentials にはどのような新機能がありますか。

A: Windows Server 2012 R2 Essentials には、ほとんどのスモール ビジネスに適したサーバー環境を実現する最高の機能が組み込まれています。お客様は、以下のことを行うことができます。

このドキュメントは現状姿で提供され、このドキュメントに記載されている情報や見解 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更されることがあります。このドキュメントは、マイクロソフト製品の無体財産権に関する法的な権利をお客さまに許諾するものではありません。

- データの保護
- 安全なリモート アクセスの提供
- クラウド サービスの統合

Windows Server 2012 R2 Essentials は、重要な LOB アプリケーションおよびその他のオンプレミス ワークロードを実行するプラットフォームとして使用できます。また、Windows Server 2012 R2 Essentials は、クラウド ベースのアプリケーションおよびサービス (電子メール、コラボレーション、オンライン バックアップなど) を実行する際に統合された管理エクスペリエンスを提供します。

Q: Windows Server 2012 R2 Essentials で提供されるエディションは何ですか。

A: Windows Server 2012 R2 Essentials という 1 つのエディションのみが提供されます。これは、オンプレミスまたはクラウド ベースのワークロードを実行するためのプラットフォームを提供する柔軟な製品です。

Q: Windows Server Essentials の価格はいくらですか。

A: 具体的な価格については、マイクロソフトの販売代理店にお問い合わせください。販売代理店を通じて購入するライセンスの価格や支払い条件は、マイクロソフトが決定するものではありません。

エディション	ボリューム ライセンス Open No Level (NL) 参考価格
Essentials	96,200 円
Foundation	OEM のみ

Q: Windows Server 2012 の一部として Foundation エディションのライセンス モデルに変更はありますか。

A: Foundation エディションのライセンスおよび価格モデルに変更はありません。機能およびライセンスの完全なリストについては、[Foundation Server 2012 の Web サイト](#)を参照してください。